

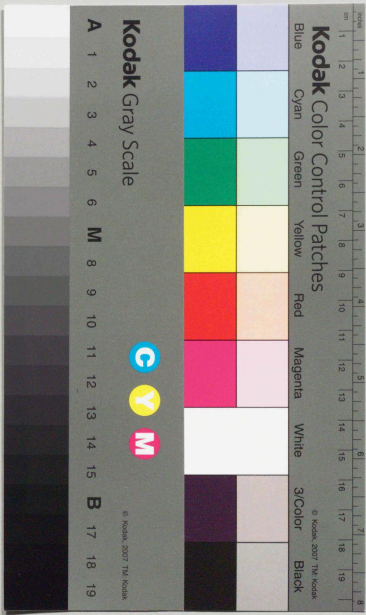
尾張名所圖會
附録
四

第壹七門 藝華講
第貳
生書 尾張名所圖會
命住石貫

願堂第(一六)號
開辦於甲午年
品目尾張名所圖會
附録
敬學課

備有傳本
附録證
會計課

第 門 號
文 第 號



小治田之真清水卷之四



目錄

郡智多

阿野冠者

普門寺

永井氏舊居

長坂氏宅趾

神明社

智多酒船積圖

磯部山親王御

鯨魚同社

鏡敷石

松壽寺

岩宮八幡社

八幡社

藤井神社

高木喜次郎

龜崎神明祭圖

岩鍋城跡

心月齋

蜂城

志津幾軒

船魂神社

西方寺

大光院

堺川純橋同中

本多右馬允

天王社

常照菴樹園

成岩城墟

法華寺

一色修理大夫

石や〜怪

匡徳院

青前魚釣

吞海院

智多の浦

野坂朝鮮人

小川氏舊居

帝皇塚

棕源氏宅趾

蟹代舊郷

海簾腸同製

師奇仇討

篠島同真

正法寺

日間賀島同真

惠比須松

小佐古墳

須佐入江

石蟹岡

新艘の事同

内海邊惣圖

白拍子池

諸見化成蟹

村君

一色村

野間庄

織田信孝吳威

柿並池血涌事

長田四郎太郎

高讃寺境内圖

粟油

熊野寄

八兵衛躰同

鷹の井

土田庄

琉球人漂流同

僧泰峯燒身事

大野太郎

大野渡

龍燈松

大草城跡

白比丘尼大桶

瑞光寺

佐布里常廻

寺本庄

花井城迹

智多萬歲話

蕨村華比九
敷智圖

衣乃浦の古歌

櫻大夫

大里橋同古

大真寺

正盛院

浄土寺

著賀御

忠女夏事同傳

荒尾古城

姫島村同野馬
中古圖

毛登目島

寶珠寺

荒尾洞

子安明神社

秀次公事同別

火上神木奇事

智多郡

智多の浦

往昔ハ智多と云ふ地名なり只此所より廣く愛智一縣のちちりといひの頃よりちりぐん二縣にちちりて南の方と智多郡

中名此分られよりちり海濱地とられたの浦と云ひそりちり下

其證ハ日本武尊此御歌にちりちり縣ひりみ姉子と云み流ひ万葉集夫

木抄等と必所ちりちりちりたの浦と云一首れちりちりちり合せ

且日本後紀より以前此國史古記録等に智多乃地名見えたりと

考者一々一 万代和歌集及ひ歌枕名寄に

ちりちりちり風音はちりか及れ浦の湖けり舊にちりちりちり

と所傳歌ハ夫木抄にも入りしれと其句詞甚たりして所ちりちりちり

所ちりちりちり風音と梳音と知多の浦と知多の江と誤りちりちり

ちりちりちり片帆ちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり

乃江と所傳ちりちりちり夫木抄板行本の誤字ちりちりちり名所圖會

に此歌と云々置字と云々異同の故再いへるに出入猶國會と合
せしむべし

阿野冠者時元 阿野村居住の人也天野信景の尾張人物志に阿野冠者

時元阿野村と志傳せり阿野法橋全成の三男とて分脈系譜は阿野
三郎隆元と云ふ隆元時元の誤字或時元乃ちに駿河國に移り彼地に

て自殺の子孫ハ猶當國愛智郡に住りり吾妻鏡に建保七年二月十五
日申利駿河國飛脚卷申云阿野冠者時元法橋全成の子連江守時政七去北十一日引率

多勢搦旗郡於深山是中賜 宣旨可管領東國之由相企云云 十九日
依禪定二品仰右京北被差蓮金蓮兵衛尉行親以下御家人等於駿河國

是為誅戮阿野冠者也 廿三日駿河國飛脚卷着阿野自殺之由申之と
云々なり時元隆元或ハ子孫甚多く何事も尾張に往りて愛智氏と名乃ち

て時元乃兄ハ阿野太郎頼保といふ是も當所の人歟父全成も恐らく
も此地に潜居して人々を分脈系譜に左馬頭義朝の末子阿野

法橋全成重名今若丸有勇力又号愛智母九條院雜仕常盤平治二年正
月 依為義朝末子懼公公方之責相伴三人幼兒没落于時全成八才國成六
才義經二才云云と志傳せらる如く阿野と稱し又愛智と号ひ此地に由
縁縁々々々て志る名來俗俗ハ阿野阿野ハ平治亂に義朝の子息
たる誅死誅死せしめぬれども頼朝卿の母乃ゆかりて多くハ尾張に
かくれて成長ありしと或説に阿野全成遠江の人也といふハ
遠江守時政の賀賀ちれば其終終て彼國にと居住あり成る

八幡社 同村にあり阿野氏の入ら 源家乃氏神と祭りナクハ君
山先生著書に天王祠ハ飯祠ハ幡祖俱在東阿野村傳云永祿元年

戊午八月小塚守弘都築守直等修造之と見えり
堀川の継橋 同村の東にあり佛誥師西鶴西鶴一目玉鐙に三河尾張乃境

てて々々々ゆん中より木と土土て渡りて見え長赤水赤水長寄行役日
記にさし川尾州の方ハ板橋三州の方ハ土橋と橋半半ハハ

阿野坂



狩鳥の宗湯列
入道兩宮より
送るは
無物
天のトカひさ
まごふたかり君
そふしん
そむき麻人
近一 玄音法印
君の代
こほりつこし
なごりかく
そふしん
つさむしむ



巡視

り是又りつゝと云々せ給かく世にゆつゝに絶橋なり。此
年比御修造より其姿替りて東西一様の土橋に成りし。古歌に「ついで
の時の用ひの爲に」云々。今、わが村の橋は半分の橋、南端に東に記に懸か
の福井の町なるつくも橋、半分は石橋、半分は板橋、中程にて絶り給へ。大水
二百五十年以前より絶橋なり。今、普通の地橋に成りたるは猶名所
園會と合せらる。

逢坂記行 今岡村

山背園前

今岡村畔分奈尾兩國相修一小橋橋下着来接土木好為笑具尉無聊
尾はとこの境川に流る橋、このまゝ築て候。
文徳記行 尾張のくはねにて候なり。今、わが村の橋は半分の橋、南端に東に記に懸か
び國のどしと云々。今、わが村の橋は半分の橋、南端に東に記に懸か

海雲山普門寺

横根村にあり大脳村曹源寺の末寺にて曹洞宗なり
境内觀音堂乃本尊ハ天武天皇乃白鳳元年二月十一日觀音の像白雲
にのり南海より來現（現）、沙彌村民むく、て堂をつくらて安置す故

藤井神社

同村にあり大府比尾大股落合進分横根以上六ヶ村の生

四ノ五

土神（土神）寸天照大神と素盞鳴尊と合せ祭より創建乃年月定らば
明應二癸巳年富田左京亮家次修造（修造）、加山境内に藤井といふ名泉に
り、故社号となり、其井今、廢たり末社熱田七社其外數祠
あり、と云れと衰廢せり

本多右馬允助定

同村乃人也尾陽雜記に本多右馬允助定乃父助秀豊
後國本多に任りて本多と称号し寸助定足利將軍尊氏公に仕へて
軍功あり當國粟飯原郷乃志村某と討取る其賞により尾州横根郷と
賜ひ御教書と下さる。と云。乾、齋、知、次、編、に、の、り、す、本、多、畧、譜

にハ太政大臣兼家康子因幡守兼光ハ七代右馬允助俊ハ子右馬允助
政隨足利將軍尊氏討志村氏有功賜尾州横根郷粟飯原村と云えて
其音少（其音少）、た、り、粟飯原ハ愛智郡二属、今ハ相原村と云り、名所方角抄
小川氏首居 緒川村にあり今ハ水野氏古城の趾と呼べり水野家乃

先祖にて高名乃人、數代此地に居住あり、也まづ

香



堺川の絶橋
中古此雅観



四ノ五

小川三郎重房ハ分脈系譜に尾張源氏浦野兵庫允重遠ノ子息に山田先生重直小川三郎重房ト云々ナリ兄弟ニモ河邊村ニ住コトナリ故河邊ニモ稱号トシ源平盛衰記及び平家物語の治承四年卯月九日源三位賴政卿ハ高倉宮にまゐりて言上ナリ諸國の源氏揃ヘ乃うちニ美濃尾張ノ河邊太即重直同三郎重房云云ト云ハテウ又白石先生の著書の水野勝成ノ傳のうちに浦野四郎の子重房小川の三郎ト名の其後亂小川下野守雅經ノ時に至テ尾張ノ智多郡英比郷小河村ノ地頭職ニ任セタリ云々ト云ハテ是ナリ雅經ハ文永元年甲子八月廿五日卒法名雅實ト号シ雅實の子下野次即雅經家督地頭職ト継ガリ其證文當所乾坤院にありテ左の如ク

將軍家政所下

尾張國英比郷内小河村一色

住人可令早源雅經法師法名覺妙為地頭職事

右任親父前下野守雅經法師法名智實去年八月十五日

讓狀為彼職守先例可致沙汰之狀仰仰如件

文永二年十二月七日

案主菅野知家事

令 左衛門少尉 藤原

別當左京權大夫 平朝臣

相摸守 平朝臣

小川太即經村ハ下野守雅經ノ父ナリ兼久記の宇治河合戦の条に相摸國の住人三浦駿河次即恭村の乳母子の小川太即ハ恭村ノ手に屬シテ宇治橋近く押寄せタタシ京方乃上筋火威の鎧ト着シ白月毛の馬にのりカサカサにつけた衣敵ト戦ヒタリ扱組トナリ兩馬ノ間に落タシ小川ハ甲の真中ニ手痛ク打ノレテ目昏ミタリシ猶豫シ心ト静メ眼ト開キそれ我組タ衣敵ノ首ヲ小川大音にていッ斃シ六人の組ヲ敵ノ首ヲ取り行クモノノ一リタレハ首持トシ者ナリウヘ我ハ伊豆國ノ住人平馬太即也殿ハたと問小駿河次

即殿乃手の者小川太郎経村と答へたればさうして首を返さんと
以小川是と請ふよりたりのち軍功評議の時其由申されば餘人
組も居りて敵の首をとりたる平馬太郎ハ僻事也組留たる小川ハ高
名也と褒譽ありてさうして居り

小川中務丞ハ 太平記の延文五年仁木右京大夫義長没落して京
と出て伊勢國へ落々俗条に小川中務仁木に同心して尾張の國にて
旗を揚尚云云去程に小川中務丞と土岐東池田と引合せて仁木に同
心して尾張の小河庄に城を構つて桶篋りたりけ俗と土岐宮内少輔三
千余騎よく押寄せ城を七重八重に取巻て二十日ばかり責めつた
俄に持たぬ城をば兵報急にけきて小川も東池田も共に降人に
出たり俗云云と志傳せり

永井直勝乃舊居 同村にあり右近大夫大江直勝乃祖父長田喜八郎
廣正 道幹公に仕へ奉りて三河國大濱村よりち領す其子平右衛

門直吉ハ則直勝乃養父なり中世この智多郡にも移りて一族繁

榮せり 織田信輝御從士分限に長田孫を馬千五百貫智多郡 直勝若年傳八郎

と申し時より岡等の御城に奉仕し忠勤を尽せり板長田ハ養父の

苗字且又逆臣乃同号をば改苗せしもの 君命を奉りて永井ハ改

む天正十二年四月十九日長湫乃御合戦に敵方乃大将と討とう此類

なき高名と頭ハせり彼大将乃令子ハ 御當家御一統の後御智に備

つとせられ備前侯に封せられし或時直勝に逢ひて知行何程ぞと

問われけしハ直勝千石と拜領すと答へ其時彼侯歎息して嗚呼我父

乃首のつてひの賤き事とてめて知まりと大音に申され俗ハ

上聞に達して多く御加秩を傳八郎にたゆりしと文祿四年

三月廿日従五位下に叙せられ其のち領知志ツク加へられ下野國古

河城主とあり寛永二年十二月廿九日六十三歳にて卒去のち白

石先生乃著書及び冢田席の昇平日新録等に記さる

石先生乃著書及び冢田席の昇平日新録等に記さる

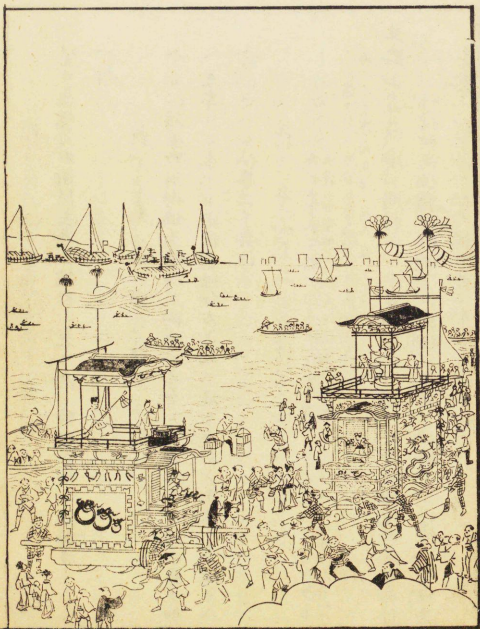
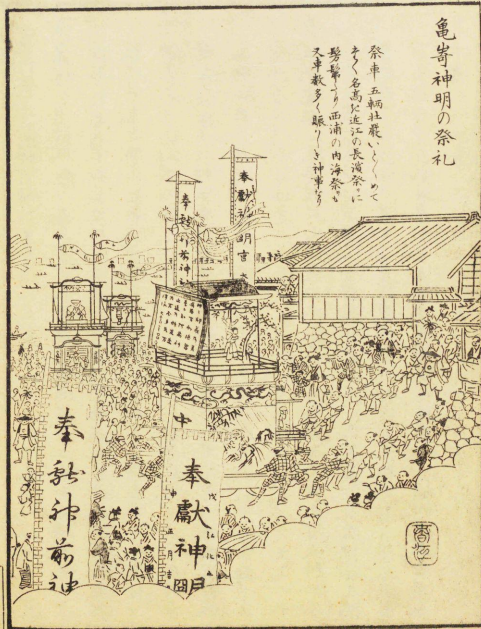


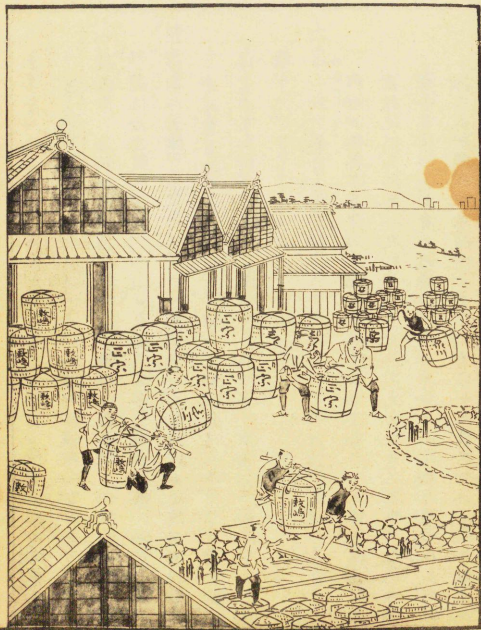
惟信和尚
薬樹の故事



亀寄神明の祭礼

祭車五輛柱籠、いゝりて
 多く名馬に送江の長滝祭に
 警備より西浦の内海祭、
 又車教多く賑りと神事多





きてなハ一ろともふめふ如くされハ費田ハ神宮に奉内御幣田を
り吾妻鏡に幕下御外甥僧任憲相傳斐田社領内御幣田之處云云と
又元備と文和三年四月廿三日ハ熱田御神領目錄に智多郡御幣田郷
田畠伍拾三町九段貳十步云云と云うせば同御幣の地ナラハ
梨溪山心月齋 布土村に在り曹洞宗にて常滑村天沢院の末刹なり
たつめ養月齋といひハ漆桶子万里名づる所なりその銘の
序文より心に心月孤園と云ふにありて今の号にうつり稱しめ
極

養月齋銘 并序

極華嚴の蔵
心之異字是謂三星純月宮群陸之本源泉水之主張也在天則為
月在地則為水無二無別故云心月孤園光念万象也恭惟阿母氏之國
有小蓬萊小蓬萊有小河城小河城之主盟号水野藏人為妙威名耀
振華夷之間列國之諸侯僉爭修盟通好山之巽然者水之鮮然者豈非

着色之活丹青乎哉漆桶子有一顧之素使介者需齋之名謹擇養月二
字命焉且副以一十有六言之銘祝延千千万万子孫之遠大

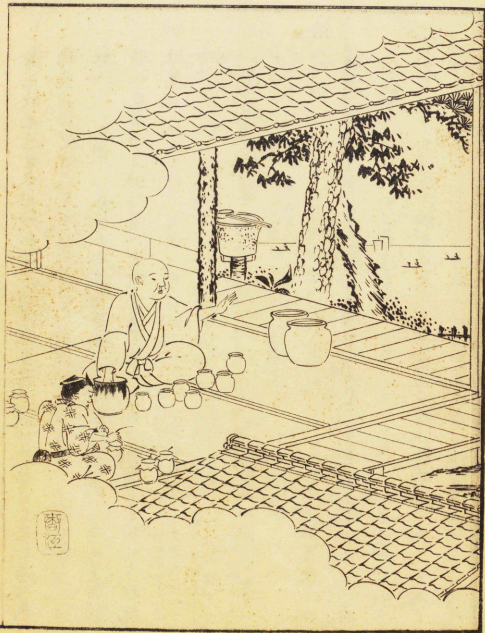
銘曰

一輪既滿 万象含秋 誰知潭底 不離屋頭 漆桶萬里

大東山法花寺

往古ハいづれハに伽藍にて僧坊と多かりしが中むうハ兵乱に類
齋寺ハ文祿三甲午年貞崇法師中興セリ今當村田圃の字に金剛
寺遍照寺ナリと喩ふ地りや支院乃敗跡也といハリ又里老乃説
當寺乃金剛力士の像ハむハ盗賊ハ千ム去リ今ハ伊勢の國ハ
朝熊山に寺置のよハいひけりたりされハ其実否ハまうハ
海嶺腸 大井村の名産すて小名所國會にのせ置たれと其音少ハた
うハ依て再ハ出す野必大の奉朝食鑑に海嶺腸訓主乃以尾州參州

為上武之本木次之諸國采海嶺處多而貢腸醬者少矣是好黃腸者金



郡蜂屋村に住す美濃守護土岐の連枝一族なりも家人の如く軍
事に従へり圍太曆の文和二年四月十日の記に土岐家人原蜂屋等
とありハ蜂屋近江守貞経乃事なり原氏蜂屋ハ貞経乃三男修
理大夫光経當師等の城よりつりより二代居住ハ美濃名細
記にのせし土岐氏系圖に蜂屋近江守貞経の三男修理大夫光経尾
張幡頭城主と云ふ一當村幡頭神社再建の棟札に康應元己巳年二
月六日幡頭城主蜂屋修理亮光経入道善武一足えたり其のち蜂屋家
退轉乃年月ハ定らざる佐治實乃子孫八即次郎為安等乃居住
せハ天文年中の事なり

一色修理大夫満範ちのり 師等村乃傳説に明徳二年未年一色源四郎満
範幡頭等の城と責り取て居住せしつり源四郎のち從五位
下に叙し修理大夫と稱す室町將軍の一族より一巻の源平系圖
項の板刻に足利左馬頭義氏の孫一色宮内卿公深の曾孫左京大夫詮
範乃長男満範修理大夫
亮光寺と又之明徳記に一色満範子の父詮範と共に
明徳二年京都の合戦に山名陸奥守氏清と討取り武功比類なり
つり室町殿より厚く恩賞ありしと云ふ應仁別記に一色の被
降す彼ハ先年伊勢志摩の國人より左京亮を背きし時も彼入道安と云
つり尾張國波津等より軍人より起りたりと云ふ時も彼入道安と云
つら石川入道も此一色家のものなり其後満範剃髪して道範と稱
す幡頭明神の神宝のうちに古写の法華經心經阿弥陀經合て九卷の
了く其奥書に

奉施入尾張國幡頭大明神御寶前

紺紙金泥妙法蓮華經壹部八卷并心經阿弥陀經各壹卷

右意趣者奉為天長地久國土豐饒殊武運長久子孫繁榮息

安穩壽命長遠隨順 上意飽足鉢鉢心中所願二世悉皆一々

圓滿所奉施入如件

應永十五年戊子卯月廿五日

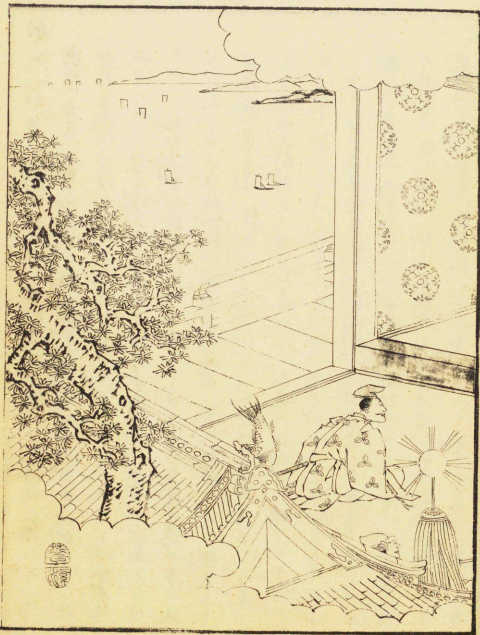
一色従五位上修理大夫源朝臣 沙弥道範

と兄をり満範乃子息持範義範等ハ隣村内海庄マうつりて住居ありハナハナ一叔ハナハナと塵石録朝日集に永享の記録と引て永享十二年五月十五日大和の軍に一色親子三人自殺同廿一日千川殿幡頭等打屯云云と云ハナハナ其千川殿よりハ今の千賀氏乃祖と云ハナハナ此一色親子三人ハ亦も満範乃子孫ハ或ハ一族の人

師寄乃仇討 冢田先生の昇平日新録に參州吉田城主牧野左衛門

佐成時子田藏成三昔年為善徳公詳清死其子成綱為石川筑後所殺其子成里猶幼至年十六乃欲報父之讐而筑後既老羞不忌討之筑後子隼人剛氣強力從家臣數十而放奮於城下尾州師寄成里伏從士於叢中已單身而走立擊殺之所伏之士乃起擁護之相引而逃云云と云此時滝川一益伊勢の長島より兵二百人遣り成里に与力あり

一と云り是天正年中此事ヲ一関原大舍復歴近松茂に成里ハ祖父田三時成ハ三州吉田乃城に薨り下地埜うて討死ハ其節妻ハ胎孕七月なり尾州智多郡に所縁有りて隠き其所にて男子と生ハ成長の後父の名と絶て牧野田三成と名乗ハナハナ故有りて石川隼人佐に殺されぬ其子傳藏成里十六歳乃時に父の仇隼人佐と討取り長島に退き滝川一益に属ハナハナ其のら所ハナハナ合戦に高名軍功有り故ありて滝川ノ家と出て織田信雄公に仕長湫の軍に首級と獲たて長谷川藤五郎秀一乃妹婿とあり秀一に附きて朝鮮に渡り忠州晋州にても軍功あり帰朝の後豊臣家に仕慶長五年御合戦のち成里浪牢ハナハナ備前侯の御吹挙により同八年關東に召出され勤仕奉り終に伊も守に任され同十九年の夏五十九歳と病卒のよしと云り其當郡に居住あり一地ハ信景の尾張人物志の豊臣家属士乃うち牧野傳三成里知多郡大高村後伊も守と云りハナハナ知信也



鯨魚

師寄村乃漁人志れ捕尙事名所國會の幡頭崎の条にあり

土佐一置つ今又其書（一）と補小允二三百年前よりハ此
 邊の海底いと深くて鯨鯢乃た多し多く住またり（二）と伊勢尾張
 三河の川より砂土流ま出連て海裡をくぐりて近年ハ大魚の獲ひ
 せむ南乃洋中にのみありて磯近く来らば故捕り獲る事も又
 されどもより鯨ハ紀伊肥前木の諸國に多く彼ふくく影蓋（三）も
 事故弥ら（四）つすといへどもむ（五）ハ伊勢尾張乃海ゆても多く
 とも此地の間瀬氏。其業れ名人より關東人に教つて鯨をつき習ハ
 せ。事のあり（六）わりのくハ（七）きといハ（八）其
 一とをらび見聞集（九）三浦淨心（十）慶長
 年中の筆記也。乃關東海より鯨つく事といハ
 条にららハ大魚をれ昔伊勢尾張兩國にてつく事有り是より東
 乃海士ハ行く事と知らば然る文祿の頃ハ間瀬助兵衛と云て
 尾州より鯨突きの名人相摸乃三浦（来り）て東海に鯨多く有

我と見て乃小所の幸ひ哉とより網て用意し鯨をつく云云此助兵衛
 が鯨つくとより關東諸浦乃漁人すより網を仕度し鯨をつく
 故に一年小百二百つ、毎年つく廿四五年此より又突けり今
 てもうらも絶果て一年にやしく四五百つくと見えり今より後
 乃世小く鯨たえ果の（一）云云と志信ぞり扱又文明六年六月十七日
 江戸歌合に

志信と云く沖のくらのわさし一すちくもらたあさ

海エタ主

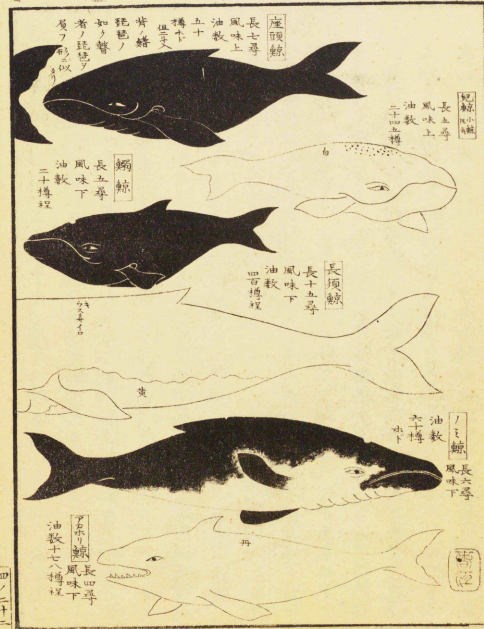
本

冬河野老花

ともくつと關東の海に鯨多き時の事也（二）哥薩瑞（三）平山（四）の
 五夕玉の當所羽豆神社の神主とすの龜寄村の也とすに間瀬
 氏と名乗る舊家叔字りり助兵衛ハ其先祖乃一族なる一扱合の
 世にも數里南の洋中にハ鯨多くありて折に内より樂田前まで来ふ
 事あり塩尻に正徳三年六月十八日尾州堀川へ鯨魚多くたより
 来ら入集りて取わけり前よりとかけと魚の要まで来り一事

きし傳へば漁者曰日下り久矣時ハ鯨内海へ入り諸泉進ハれて濱迄
くち事有之と云云と見え又或家の秘記にと延享四年二月十
日智多郡加家村前の海中ハ長七間余の鯨象手負て流きて來り足物
人羣集以金二十五兩にて藪村の者買取り利を得しと志傳せり其
後とたひ前濱より獲し事ありて足せ物なりとす凡唐土にて
長板十尋の大魚四足ありものを鯨鯢と名け多恐れて捕俗事なり
日本にてハ往古より取る事萬葉集に云く惣て鯨の子ハ卯生
せず一足げ胎生ハ牝牡交信事ハ人の如く腹を合すると大鯨ハ
陰莖ハ長一丈四五尺圍り三尺なり是ハ石子といふ鯨珠の事
ハ本朝食鑑に見え鯨糞の事ハ多識編にあり合せると一鯨大小
十余種我所蔵の鯨寫生圖及び神谷三園の藏書鯨繪卷より司馬君岳
ハ西遊旅談等によりて其形を圖して一覽に依り
志津養師 師寄邊に産けりハ偏モハ上品他にすれ干看にて

清紫比類なり依て年々四月中旬關東一御進敵りて武鑑ハ
御家時献上る條に四月十八日志津養師と見え家に名産すとす
たつきハ地名と諸國に例多く志筑後月尻調たとす向く書けり當
郡枳豆志庄ハ其地甚廣くむら志豆枳庄といひたりといつ
誤り轉倒すべきつらなる物ハ尾張氏の遠祖尻調根命元
調止女命の居たり地も押とれたり後人より考
考あり
りやりの怪 兼穂録二篇に尾州智多郡の海上に十二月晦日舟
泛むれハ必幽霊といふ物乃如き怪物多く頭上舟にげきてやんや
其時じやくと多く海に投さる怪物退く志傳海援録録
に鬼哭灘極怪異舟到則没頭隻手獨足短壳鬼百十五互羣來趕舟
人以米飯頻投之即止り異なり西國ハ海上にてやりの
物同ハいり今猶師崎の漁人其外の村の者



入江等多くて恰もけく沁著葎乃妃（東乃方むや）たんの口
と差（き）所後村上天皇乃城山（ま）く其上乃岸と龜戸崎と（い）その
南乃方に志と寄（り）の（ま）山十五堂の北（り）ふれと十五堂（南乃）
方の東寄の所と前濱と（い）小廣き入江乃如（り）れ乃り南西（曲り）
弁才崎と（い）弁才赤岩崎（水重浦）水谷（い）鳥取浦牛取寄（り）西
乃方、海濱長くと西浦小山岬と濱汐ちと浦田橋浦（深）
入江馬と瀬寄（西へ長く）立屋浦（小山）タ長濱等（り）北の方石猿尾乃
なり（出張たり）西の上乃山に金剛山（延徳院）其西に神寄（龜子）巖（あり）
西と神濱と（い）寂靜山（四方寺）よりなり（なり）子（あり）
石猿尾の東と小濱と（い）それより東龜戸寄まで入江も出崎も
鳥うちちに大社めきき神祠六（神主）氏（其外）小社多く小
地なりぬ寺院八字その外十五堂（り）民居ハ中央の少北東より
て西濱村前濱村神渡村と三所に今ま住む牛馬ちと（い）とも
諸事不自由なり寺人質ハまどれて温潤すぬなり事伊豆の大島

八丈島等の人物の如く公家の御法令千賀氏の指揮と守りて小
料（い）犯す者なり婦女（柔順）て孝貞あり儉素あり容姿と飾
らび富めら者も盛服と前垂（い）りて職掌と（なり）なり（天明寛政の頃名古）
谷にちの（い）ゆて（い）名は（い）樹のま（い）たま（い）りタ（い）ク（い）浪の（い）今乃清の妻乃
子（い）はく（い）了（い）をわ（い）両方（い）られと最感賞するに堪たり

鐵敷石

篠島乃石ハ其質堅くして鉄乃如（い）故にやく名（い）げ（い）り（い）や

む伊勢乃大神宮に石御入用の時ハ當島より献（り）也嘉祿三年
乃外宮山口祭記に鐵敷石司中下知篠島御厨奉送例也云と志（い）乃
西乃方の属島のうち平島乃神島ハ皆岩石にて草木生せずをこら

より切出（り）て奉り（り）た（い）り

船魂神社

同島にあり面た（り）社（い）て往古の鎮座をれとも其年月
定らな（り）ずり海島のうちには祀らてあるゆ（り）き御神也當島乃

氏神土宮ま八王子社の事ハ名所圖會にあつく志（り）置られハ是



竹條島比真圖

と畧り

金剛山醫徳院

同島にあり真言宗にて中島郡長野村万徳寺の末寺

なり天正三年秀範法印の造立境内に藥師堂及び鎮守白山社大黒社

蛭子社等あり

龍門山正法寺

同島にあり曹洞宗遠江國周知郡久能村可勝齋の末

寺也應安二年説宗和尚より創建鎮守熊野社秋葉社あり末寺も造福寺

正藏巻とて二字あり。先年他所より移りて今其旧地のミ残り

東照山松壽寺

同島にあり曹洞宗須佐村正衆寺の末寺也天文十一

年雪天和尚より創立末寺一葺斬新造巻の二字。先年他所にうつて

其跡今ハ明地松林とあり

安静山西方寺

同島にあり浄土宗にて京都智恵院の末寺なり永正

十三年安養上人の創建本尊の阿弥陀も聖徳太子乃真作なり鎮守弁

才天の社あり末寺安養寺ハ先年他所にうつて今ハなし

青前魚釣并鰯網の事

見らさハ篠島日間賀島佐久島ホのらハハ小

舟なる人見氏乃師寄日記に村乃伍長珍左門来りて鰯網を引云

叔小舟一艘と物たりたちちに打乗りて篠島の沖より引てゆく三

艘に組ハ鰯舟といふ門會ハ師寄舟伊勢舟鳥羽舟伊羅古舟

等相交りヤコトウにと細くたくすやちもて奉心といふ四方

より叔十の見物舟我らちに入入て鰯を奪ひとむすおれと形

せと雲の喧嘩騒雜海賊なり又多すハわくと有て我も乗移

りて二百匹と有り細取寺鰯と左右の手に引りて八方へ拂つ海

龍王一奉の初尾なり云寄舟にもおれにも争て拾ふまに鰯舟漕

りて走心内にも無数の銀花飛散する景色伊吹山雲の雪も見え

る諸天神雨花乃快樂も是にハ過りと思ふ又なき見もの也佐

久島さして十町より東へ行くに釣舟多しわづいひつるよひい

なす見らさハ事也鰯と餅みてつらむらさハく花も乗なり浪を



せりいきもつたり、人物を「を思へ」と古歌に「よみきればがさき
もり」〜「されども連年島うち豊饒になりて今ハさの業すも女
とまれく」にぬり行〜」也

若宮八幡社 日間賀島の西里にあり、頗大社なりて、殿宇嚴麗に備ハ
又末社も多し

澳養山大光院 同島の大里にあり、真言宗にて大井村匡王寺の末

寺なり古刹にして由緒た厚きけなく、すゝい〜も事繁かれ、もこれ
と畧し島人の職業澳獵のみなれば山号とむく、すゝい〜安樂
寺乃阿鉢陀仏に奠物と備ふと一般也

龍松山吞海院 同所にあり、曹洞宗にて條島の松壽寺乃末寺なり、寺
傳繁多かれ、これと畧す境地ハ海岸に臨み直立たる巖壁の上なれば、
殿宇のす向恰と唐画と見ゆ、如く椽椽乃老松蟠屈〜々々〜く神
龍の海水と呑むに似たり、山号院号等に起る、俗なり〜東西國、

乃遠山ハ手に、俗如く五十里六十里なるハ一瞬のうちに入まり小
田切忠近中尾義福我と三人天保十四年の秋公命と奉りて智多郡と
廻行し此島に到りし時、案内す俗者乃物語に此地より望遠鏡とて東
南の洋中と云れば、天涯と云く小蒼翠山色と覺き物なれ、又いつ
堂いつり、控ハ八丈島、〜くハ無人島の山なり、〜其時評〜
ゆり〜なり

恵比須松 須佐村乃海濱にあり、邪君乃御哥によりて、よよなき名木と
なれり、天保十四年神皇御成御道の記に須佐の入江なる波うちき
ハに若と根〜て生出る松と恵比須松と云く、〜き〜て

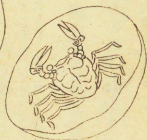
名に關し、岩乃比乃子の岩小字乃まむむ、〜こ〜い〜ひなれ

小佐の古墳 須佐乃属邑小佐村乃海濱にあり、人見氏の師壽日記に小
佐乃海濱小古墓の發けたる一基あり、條島石にて築き、より四五十
年以來波浪よく打出せり、椽百歳と經く、古墳なり、〜と邑老等、

須佐村名産
石



ついでに
ふもろ
わね
に
石



申しより志留せり誰人乃墓々知り可く分れど須細治部大輔為基
乃墓なるや猶考ふ一為基ハ比地乃武家にて頼朝卿に従ひた
り一壁となり

須佐入江 名所圖會に引れたる歌

須佐入江 名所の旁 俊憲法師
ほこもく信了さの入江より江に小舟を月の沈らむ 信生法師

新和歌集 歌しらすん 信生法師
何ものすむまも入江の子なれぬれてうみの草まふ

草枕集 幽也 正徹法師
うかれますきの入江の夕飯を泣きまてまろりちの村も

土州集 歌しらすん 正徹法師
まじりちの月夜にみかしく所流りては浪の月うつ

実隆朝臣
判詞に五 ちたれははいともつにすけりちのたすきの入江に

石蟹 須佐村乃名産也本草綱目啓蒙に石蟹は一名和石 本草要蟹土中

に入りて土と共に化して石と銘も物なり大者ハ一尺許小者ハ一寸
許和産ハ尾州日間嘉島及須佐村云々と志留せり今ハ日間賀島
はすくなく當村に多し丸石のひハ難知ちりの五郎太石とてうひ

鼠色なりニツに割ハ中に蟹ありて共に石となりうくまれり形ナも
色も全く具足す誠奇品也

新艘の事 ちかや草 多田南嶺に尾州知多郡の也嫁入の時富りも人

け新く船を造りてさなは婿と嫁との紋と居て舟に乗せて送

ゆされハ嫁と御新艘もソノ名古屋堀川へ石臼海船にニツ紋了

たも多し古風なる事にうを志留せり 崑山集 慶安四年 良徳の撰

祭勺に

伊勢乃海の月乃出舟やゆらん 造

作者不知

と何もの嫁入船とてソノるかなる一伊勢比海ハ則此智多ろ海
なり凡船もて嫁を送り迎へすも事ハ當郡諸村一般にて何處とさひ
なき地なけまど比内海庄のうちには大小船數多所持りたる富家
多分れば志留りてちかや新造とわく方古
雅也其故ハ職負念の太宰府の糸に主船一人掌修理舟攝義解に謂



内海邊圖

内海

大工職掌云舟楫此即所新造者故此司唯掌修理也とちもせ俗を以て
知く一扱婦女と美称して新造と呼ぶ可いと婦らきあひて女
安三年田樂能記の供奉の女中うち新造息女といふ事又之應
仁記に伊勢守貞親に新造とて寵愛無双乃新女有り此新造を御女
と扱中奉りた俗と云ふ事なり 或説に新造を稱家作より起ま俗を豊鏡の合
は成り下人不御新造様と云稱一かよりて室女の通名と云ふ物なりとい
ひたり又一説にとんぼりいふ宮中より御室の内に召入て俗に御入帳といふ
ものひの女的美稱なりといひ長恨歌の古註に養在は御人未識の所と云楊貴
妃は宮に養はれ初め人となりてと云ふ義なりと云ふことありて人の物言にや
さしきまよひのうちにこもり砂りといふ義なりと云ふことありて人の物言にや
云云又云奉朝大料の紀納言の負負女に奉是富家姓女也深宮兼養成身なり
ありて工新様新造法宮の三説を整理す

白拍子池 小野浦村にあり君山先生著書に白拍子池不知其所以名也
按此地古為繁華有妓女故名之欽と云ふ事なり是則伊勢の大波より
當郡へ渡海す一頃的事なり一
諸貝化威蟹 小野浦池の里老る説に諸蛤蛤のたらし春夏化して

蟹とすなり二蟹をたそさたといふ是則牡蛎の化する所也其
外油がに亘る瓜白がに渡るを長田に等しれも諸貝のなすもの
はて大概民人よれと食す一種田間にあらと芝蟹といふ大さ三四寸
蟹赤く毛有りて桶とらひ害をか守ありて蟹を食する人なりや
いへり此里説によりて今案せらば長田蟹と庄司忠致が怨魂なり
又たるにいへりいふまじく長田かひといふ貝乃化したるなり
其證ハ新撰字鏡に蛙蒲礼及野
長田加此と云ふ事なり字鏡ハ忠致よりていかに
前の書なり

村君 一色小野浦西端寺の村ハ寛永の頃より鯛といふ漁人多く鯛
漁乃本源也とて其外諸村に於此漁り鯛網を引に漁船板十艘のり
廻り扱百人よりむく其うちに村君といふ者有りて奥の所をやと
て網乃是曳と指揮す手足を左右に動かし上下に運らし相圍する
事掌と云ふこと一扱船の漁人は是がまゝに舟の網をゆりて或

ハヤハメ船の進退と云ふこと云せされも網代外に奥もれて多く
故より所々ハサといひり村君ハよく其業に妙と云はる者よ所に
尊崇せし中む甲斐の武田家乃軍士萩原常陸此地乃村君
いふ松と指圖すも挙動を之てユ夫一うつ一軍兵と指揮まも相
圖と定めり塩尻に居たりいと古雅なる業也叔渙者と村君と
いと往古よりれ名をうつ備前氏の吹上の巻に著の院にいて給
ひて所まもけきりつとてそは物いひをむきみりて大野
みまをせしり遊人と云ふ事あり又吾にふゆふハ
山家集 仲たし思にうきりるあふゆふゆりるやと
思の社にかくむしれも涙もきてわいひとむつ所まもひと云 西行法師

一 色村 小野浦の北にあり一色氏代々當郡と領知りて内海乃邊ま
大野の所より居住あり足利氏乃貴族なれば其居地則村の名
ありてまもれる小邑なれども野間庄一色村と今に歴然たり
季瓊日録長祿四庚辰九月廿八日大智院領尾州内海庄廻舟公事一

色殿被官人押坊可停止違乱之責命飯尾左衛門大夫方也 十月廿四
日大智院領内海庄廻船之違乱一色兵部少輔方被申可預御成敗之訴
狀披露之即命寺奉行飯尾左衛門大夫也 寛正二年己九月十日大智
院領内海庄一色兵部少輔殿被官成違乱之事伺之可被成御奉書之
由被仰付也と云ふは兵部少輔義範の事之義範ハ分脈系譜及
ひ武家評林系圖に修理大夫滿範乃子息のふちやせり義範と云
五郎と稱す其兄と次即持範といふ兄弟とも其居地定よりすと云
とも前件内海庄廻舟の公事出立ると云えれども何と云はりとの地に
ありのふ 義範のちに大草村と移住ありとの名 因に一色氏代々
當郡居住と云ふは分と左に畧記ハ
宮内卿公深 足利宮内少輔泰氏乃末の子にして一色氏の始祖也一
色法印大夫と稱し威權世にすなれたり法号と道秀と稱し正和三甲
寅年小倉村に蓮臺寺を創建は則その香花乃道場なり



嫁入松比
比翼紋



太即範氏ハ一卷ノ源平系圖に宮内卿公深ノ長男にて一色太即範氏大興寺殿と志付せり武威尤まられたりのちの大興寺の条と合せ
スルニ
右馬助頼行ハ 範氏の弟也公叔系譜に建武年中武者所ノ関ナリ
と一色付せりのちけ浄土寺ノ條と參考す

修理大夫範光ハ 範氏ノ子息にて一卷ノ源平系圖に号慈雲寺と志付せり名所圖會ス慈雲寺ノ条と又合はレ一彼寺に一色禪門といふゆゑ一帖有り書体すられて古雅なり其辭尤の如ク
魚長公の非五藏の筆といハ
一色禪門ハ武畧の名世に關与弓箭の藝人ヲ勝れり張良英會と
と物の教ト爲アスルハ九州度々の合戦其ゆゑニ鬼神の如ク更に
面とむらふ者ナク誠ニ一人當千といひつ一又武藝の秘術と傳
えたる事まことに他人の志付可くすべし一に三代柳營ニ
抽賞せられしに名況哉と和漢の教奇心ナクゆゑとてき春山百

花乃頃秋野草のまうりすて醉花ののびとよひぢぢハ幡
北野の法樂年毎にむこたふされし花下ろ捨客月前の騷人彼送
愛と志付し甘棠とすやが如く愛と金蓮寺上人多年のゆり
ゆりく金石の約々カクク鳴鶯の盟と愛と久珠ノ名号の利劍と
提て九品ノ望懈らさりき志しれと双林の春花忽に枝り提河ノ
水の声悲耳にむぢ人廿五日乃遷化聖廟と定めて引接り
云 此ゆゑに愁淡とわきて聊亮筆と深まものなり干時
詠らひの二のこゝ二月末の五日このちの記
左京大夫詮範ハ 範光ノ長男にて長慶寺と号ひと一卷ノ源平系圖
にいり庵原守富ノ友千鳥延享改辰年五月智多解抄覽の日記なりの頭書に名和の城
跡も一色左京の持云云と志付せりハ詮範の事云
修理大夫満範ハ 詮範の子也委くくす人師寄の条に志付は同
源平系圖に慈光寺と号せり志付せり東端村の臨湫山慈光寺

ハ此満範の菩提所なり。浄土宗にて威岩村常樂寺の本寺なり。その外木田村觀福寺中興の棟札に實徳二年庚午十月三日立畢執者尊海大檀那一色左馬頭一色中務大輔とありたり。甚多かれとこれと畧し。

野間庄 上野間村と云ふの故に村と野間莊と云ふゆゑ地名にて

平治物語源平盛衰記等に尾張の野間と見え吾妻鏡に建仁二年二月廿九日乃條に壞渡故大僕卿朝沼濱御舊宅於鎌倉被寄附于榮西律師龜谷寺云と云ふなり。又舊事本記に宇摩志麻治命十三世物部金連公野間連祖也とあり。尾張本貫の姓氏にてさし入るなり。原景高の後室と此地を領知せし也。吾妻鏡に正治二年六月廿九日甲寅故榎原平次左衛門尉景高妻三刑部若尾御臺所官女御寵愛無比類且雖為女性体為其仁故將軍御時雖領尾張野間内海以下所説而夫謀戮之後一切隱居頗成恐怖之思云云仍有其沙汰領所等不可有

相違之旨今日蒙仰令安堵云云と見えり。

織田信考の冥威 柳並村大御堂寺の境内なり。信考の墓に危難消

除等祈願とあり。必應驗ありと里人いづり。小重猛とあり。大將かれはさもちたり。豊臣家ろ滅亡のそやうり。此人の憤怒怨念にたり。家田大峯の昇平日新録に神祖語侍臣曰忘君主恩而虐其子孫者雖有一身之幸其報必將在子孫其驗迭見大坂也。秀吉志織田氏洪恩而唐信長之子信考於野間内海自殺云云。今而思之信考之死則五月七日也大坂之滅亦五月七日也。可謂其報不違矣乎と云ふなり。これまことに至當の御尊言なり。非道を以て末々心と成ちり。人倫たゆものば。ゆびんハ者。て。惶當文集に

今古義朝無信考君臣乱逆後人哀哀之不鑑應如此業道野間猶禍胎

とあり。其不道といへり。む意味こりれり。

柳並の池に血の浦出さ事 中古西三度もあり。と近世も記出

事ハ玉滴隠見に延宝八年十一月尾州野向の内海乃池水紅に成
も也と志傳（或武家ノ秘記に元文三年十一月中旬頃より村並村大
坊乃池に血涌出て廿一二日頃ハ別（て盛なり）池の成変乃方と也
寅の方と二所よりまきうち南の方（て二筋）もに水面にひき合
いたり（り）ス（る）り（） （う谷例ハ諸國にも多）號日本紀に天曆元年七月
血云云と云々年代記に長祿元年五月十日條汝池水血と志傳（為字記に明應二
年十二月九日條汝池成濁如血其外惟異有之云云と云々（り）ハ此同條の條事なり
望野間内海感源典

菅茶山

聚妻當得陰靈半生子須如李亞子此事古今人冥黠能兼二者將軍是

如何一朝も狂謀煽動戰塵汚履棲身既伏誅二子戮妻抱鏡孤妻夫歸

浮雲慘淡山日移内海風潮晚凍其葉威名片時夢奇番千載被人嗤
太原遺孽韋韋雄武末路無如港跛危鶴鶴原荒又雖難祗有卷灣來布古

長田四郎太即親重 長田忠宗乃餘裔にて野間庄の人なり（たれ）其

出生の地今定り難く駿河に以て今川家に仕へる不幸困窮にせ

まりて終る自殺（げ）自在（づ）の繩（づ）に切りて縊死（す）ハいと珍（ら）き妻
死なり宗長手記に尾州之人長田四郎太即親重（志）の年月病（て）割（）
心（を）もひの（と）わりて奉公にと及（び）然（ら）れハ給恩（に）を離（して）後奉心
に立歸り其母（も）も思（ひ）あ（ら）た（ら）し（）あ（ら）事（も）も（）されハ又誰と
ア（）方（も）も（）ち（）て月日と（も）程（も）窮困（し）計（り）なく一振一腰身に掛
け物までも活却（し）或ハ祭（り）も（）祈（の）の物（に）を（）或ハ（）首尾
の賄（な）ひ（に）て飢寒（の）二字此宿の物（も）ソ（）ハ（）妻（と）
と縁（に）にも（）ち（）り（）此頃ハ獨住（して）暮（す）す回借（の）返弁（に）と及（ば）
小方催促（の）せめ使（ひ）志（す）り（）て如何（とも）せ（）思（ひ）ひ（）び（）ての事に
や大永五年八月の十七日乃夜逃（き）所（の）觀音（に）参り下向（して）水（と）の
み繩（乃）一尺（な）白（ま）ほ（も）自在（に）鍵（け）繩（小）頭（と）入（り）て祈（に）志（め）祈
りてす（べ）り（）死（す）も（）也明（る）朝（己）の刺下女（又）け（り）り（）に
告（げ）り（）も（）此（の）思（ひ）い（）計（の）事（も）五（日）さ（）り（）い（）さ（）の

西阿野村
高讀寺

山名一
名所
中會仁之方



朝暮とちてあつひひとりぐん事衣れ浅うひきてて人ハ尚也の
口論うて差違(戰場)して討死すも事侍の常なり之虎ハ死
す皮ととめ人ハ死して名ととむ中(一)より希代の事なり
一と志内より是も又先祖の積志の餘殃なり

魚油 當郡中ノ名産にて内海野間横須賀より諸浦日間賀篠島等に

て製ひ君山著書に海鱈及鯧魚河豚肝皆可為油就中鯧魚其利甚博内
海諸浦製之其法海濱空窻安大瓊汲潮水滿之投鯧魚數莖煎熱時
入榨器壓注膏水共滴以柄按之膏浮水上以杓挑取捕邊押筒去水所取
之膏以沙漉過即為清油幣之四方以為灯燭之用と云へり

熊野崎 枳豆志庄熊野村の出寄といふ風景尤斜ちて永禄十年七月

ろ富士見道記に亀寄といふ所より二里とあり南けう熊野寄とい

三熊野にむく洲寄(漕)出

みく島の浦風流(林)乃海

船巴法橋

八兵衛躰 常滑村の陶工白鷗俗名と八兵衛といふ名工にて天明寛

政の頃世に鳴る禽獸共奥多の香合香爐水指など種々作る其うち
奇にて雅趣あり實に妙手なり又俳諧に長し手跡とよみ遊興
にゆけり酒と好む醉狂の歌ひ手とたひてうたい立て踊成ハ
衣裾とつけて尻のりハたつとも妙に常に禪とまじりて用ひ

されも前りのハ貴人の前富家の席といふも憚事なれど其
失礼と咎人なくもへげと真なりと賞せし内実小徳乃至志内た
る世にあつてせふ内者と八兵衛といふ事ハ此白鷗より始まり
と其項儉約流行して禪とまじり用ひ人稀なりたたく縮もめん
あつてする者といへりて古風也と笑へりされも柳樽にも

古風なる内人ハ何んといふ阿三て

壱鳥井 壱鳥井 川原村にあり源頼朝卿此地を過られ一時此井水と嘗に飼

常滑の
八云巻
踊り



三
浮
繪

琉球の使船難
風に遭りて知
多浦に漂着



こもゆさうりとも賊難有りとも警固の侍所まゝのせくれは古傳門
らなく夕なびく暮るそは得たにやつたりとあるよて如
る

龍燈松 大草村小所り君山著書に龍宮松在大草村浦口里老傳云古有

龍燈屢上松梢故名而今村民祈雨必有愿云と志ひてり我松の松乃木
其に界の法に
に例多く散々所を其うち草松集に凡くゆから依の浦松をいへて浪
浦せられたつものいふとあり其後乃天の瑞立に海流をりて正五九月十
六日の夜天より一燈降まるとよりと名所方角抄にも瑞立に松に
毎月十六日の夜竜宮より燈あると志ひてりゆき龍燈なり

大草城跡 同村にありて境地甚廣く降邑襟屋天神の社傳に寛正三年

大艸の城主一色氏修造のよといり一色氏乃居城と云はけ持け
城今ハとりりて天正の末織田源五長益與南に地を領し城を
築きいま就びて罷しを山澄淡路守英龍當村と并領のち
社第宅と營構あり今に歴然として古城の姿やのこりて
八百比丘尼の大楠 南粕谷村にありいづから取てやくよびたり

今ハ知りて八百比丘尼一名白比丘尼或ハ若狭比丘尼ともい

若狭國小濱に里民の傳説に比丘尼ハ尾張國一の宮の金光寺といふ
所乃出生のよといりと彼國人語まり叔中島郡真清田の社乃東の
方に金光寺町と云ふ地有りてさゆ寺院今ハなといとも其有り
りて生まゆ婦女あり一宮人もいひ傳てりされ當國土産に
多し智多郡を所縁ありと汁りて貝原氏乃諸別めらる小

若狭國小濱に城なる建康山空印寺に八百比丘尼の石牌有りて
福徳長者のむすめ人美と食ひ給ふ八百年いきて其所に住居た
りとい里人いひ傳てり志ひせりされといつ頃の人のさうに

子ばばといとて即雲日件録の宝徳元己七月廿六日の条
小近時八百歳老尼自若州入洛洛中争親堅閉所居門不使人容易着

故貴者出百錢賤者出十錢不然則不得入門也と志ひてりその時
代ハ大概志れんとい其趣て口今の世俗の又世也といなりけ

たゞいふ老女うらひも押おししれれりりののみ若狹尼わがらにと稱なづせせり人ひとと
歴々あつ武家ぶけの後室ごしむよりきふたゞひひ賤せん女によにわわくく若狹國守護
職しやく次第しだいに津つ見右衛門みゑもん次郎忠季つぐゆき建久七年九月一日守護しゆご并領へいりやう云云いんげん寛
喜三年今富名御代官若狹尼わがらに若狹尼わがらに者もの云云いんげんと云いふふ若狹國稅所今
富名領主代とみなりやうしゅだい次第しだい小若狹こわがらの尾連おしづ年北條家知行の代官とつつととりりよ
一いつつせせり其間七十年ななじゆててううりりとと愛あいもも也や後家ごけより七十しちじゆ余年ねん在職ざいしやく
其後そのごいいつつ程存ほどぞん余あまりり今いまハハもも八はち百ひやく比ひ立た丘かみ尼にハハ後
家の事このこととと思おもははぬぬ若狹わがら國くにのの娘むすめななららばば若狹小
嫁よめトト斯しか長壽寺ちやうじゆじトトをを稱なづ考かうすす一い
其山集

其山集

雪ゆきとと人ひと始はじめりりちちやや日ひくくやや比ひ立た丘かみ尼に

長頭丸

金鐘山瑞光寺

鍛冶屋村に在り曹洞宗より能登國總持寺の末寺也
明徳三年妙叟和尚より創建應永年中勅しゆくして金鐘山定光報恩禪寺の号
と賜ふ在りて貞享二年今令いま寺号に改む

佐布里寮野

佐布里村の名物より上供にも備ふ潔白細條化産小まき
まり近隣諸村にてと製す當郡中へて麵粉精好なり故に大野より一
口香名和の乾温飢等いんげんと名物トす

寺本庄

堀之内村中島村四五ヶ村に在り左のうちに也無住國師いんげん乃なほ難談集
に智多郡のうちに阿弋寺あごじ本もとと相並あひなひたる所ところなり阿弋乃地改あごのちかへと寺
本の地改ちかへと伯甥おほなま也なり各其地に代官を置おけり守りまもりりをを分わかけけ小阿弋の
代官非義たがひを働はたらき寺本乃地じほんのちととななすすめめりりてて押領おしりやうトトケケれれもも寺本の代官
心こころよりより申まをひひてて主しゆの地改ちかへに其由そのよし告つげげりりもも寺本乃地改じほんのちかへとす
恥はづれれとと賢けんき人ひとより心こころににおおけけりり近親類ちかひ乃なほ聞きななれればばいいさされれ事ことに中なた
けけいいせんせんハハうう俗ぞくトト沙汰さたすすべべららいいひひてて其俵たわらよりより魚いさなトト多おほ年
の後阿弋の地改自然しぜんと其由そのよしと聞き知りし甚いた耻はづれれてて我われ知しりりななららずずハハ俗
不正ふせいとといいひひにに思おもははまんまん事ことトト心こころ苦くるトトケケれれしし我われ代官たいてんとと叱しりり其
かすめたる地小阿弋の地ちトト多く切端きりばて寺本の地改ちかへトト一いなり

姫島村中古
草牧乃豚



草堂

四十一



英比九幼年
乃取智



ふ如く初春と祝ふめて夜物たつた小念のセ花々無袴ふらうそ頭中か
むりた内ハ無下にいやく又所なく誠に古雅なる姿と失たうり
の起りハ神楽ノ千歳といふ事にはさしく万さいやまの世の万さいやまといひ
けるど元々とも出来よ由方々一或は尾張連渡土の舞ひたり。和風長香樂の
度風取りともいふ事なり仁明天皇の御時より始り。一。新撰樂記古今
著聞集ノ諸書に其名之て卧雲日件録の文生四年正月二日ノ条に種々食舞音舞大
樂記云昔之千秋歌殿前後相連未各も百銭とある事なり外紀古事記に東三條殿
の大儀百時ノ香御下毛野公文文在居西の門より入り錦の御所よりうらま
り申ふ事なり。上達部の人これにて千秋歌殿の入りたるも、宿りややたむれ
笑ひたり。又、塵尾物語に或旨日由合より抱へたる手引の方にも「官人達
行逢ふは必ちあせよといひあて召つれりきり。初春の事うて人たらず
ぬ小たひく鳥籠子より。ゆきをそとせりりて万歳小遣よりにやたら小舞踏
は少通りけり。さても。ちやせり
いとど。さても。ちやせり

藪村 寺本庄乃うらの一邑なり昌泰の末に菅相公乃御末子英比九幼

稚より當郡に遷され落し。と往古よりいひ傳へて其事蹟所々小
多しす。て藪倉の地より田舎小移居を藪入といふ。いとゆけ
まはり。公英比九乃藪入より起りたる名小ハゆびやま内ハ越
後名寄に魚沼郡藪入村一名地に左大臣時平公の墓あり其地小左大

臣乃餘裔と称す者有り依て逃入村又藪入村と称びる。志尚也
中同時同例なればわく思ひよりゆき也菴原氏の友千鳥津島の氷室
赤長乃秀にむり。藪村乃志小也考てたる童子有り。五歳の時國司乃廳に
召さゆ。有りて白洲に出り。志尚りぐれ。國守これにて

とさねころ語にう。み。こ。を。す。れ
と口すさひけまは彼童より所ハ也

志尚 志尚乃子ハま。日た。親ト似て

や付たり有りや。ふる多智多才のま。ハ。生。い。山。地。な。れ。ば。や。う。て
智多郡と云ひや。志尚。其友千鳥の改書に藪村の児乃宮
ハ。志。童。と。祭。ま。而。也。又。英。比。乃。郷。中。に。祭。ま。巡。り。地。藏。と。云。稚。子。乃。像。な。る
よ。い。り。此。連。勺。犬。筑。波。集。ま。り。し。れ。と。智。多。郡。の。事。ハ。え。ん。且
勺。体。も。少。う。た。ひ。て。志。尚。の。わ。み。こ。を。す。れ。志。尚。の。子。れ。ん
付。より。親。と。似。て。志。尚。せ。り。如。此。三。四。百。年。む。り。の。古。勺。な。れ。バ。里

老の俗傳も又新らうと説なかりぬ 去の廻り地蔵と名所書會に
廻り地蔵改りたるは
かし英比元は延喜のころの人たり頼朝卿より以前に此地より名月あり
りゆ 且又廻り地蔵といふ法蓮に樹多く山城國山科の四宮村に廻り地蔵堂
あり源平盛衰記に西光法師大珠に地蔵菩薩と通り四宮川小幡里六ヶ井に蓮華
と構卒都婆の上は大徳の尊像と居奉りあり地蔵と号す云々といふあり
廻り地蔵の條に古歌より俗に云ふ 堀尾春芳が集めまは衣れ浦千鳥集 和
三年五月の自序ありて乃頭書にもけ智重の付句により郡名とかり
三年三月夾鍾板行す
し 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば
衣の浦の古歌 名所圖會にもれた俗と補ふ

井内侍日記 至に内侍平重盛がてりて西宮に衣れと云ふ

たらなれの衣の浦や春雨はあててまの神ぬららん 井内侍

草根集 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 正徳法師

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

同 衣の 衣れと其旨少くたつり猶合せんば 同

大里橋
古覽



録小智多郡大郷はとてゆき郷名なり

龍雲山大興寺

大興寺村にあり臨濟宗にて岡田村慈雲寺の末寺也

一卷の源平系圖に宮内卿公深乃嫡子一色太郎範氏大興寺殿と云はる
る人此菩提寺なり境内大日堂の本尊大日如来の蓮臺に負和元年
乙酉再興源範氏と云はるり寺号ハ則範氏の法名也

高根山正盛院

草木村にあり曹洞宗にて三河國八幡村西明寺の末寺

なり天文十九庚戌年榮信正盛尼公乃創建かり則その法名と院号と
ハ尼公ハ水野右衛門大夫忠政主の息女傳通院君の御妹なり

青承山浄土寺

同村にあり曹洞宗より同所正盛院乃末寺也一色範氏

乃弟右馬助頼行建武年中武者所當郡大野の城主にて當寺を創建す頼行の

法名と浄土寺殿大照臨公と号しとやして寺号とす

蕃賀郷

和名類聚抄に智多郡蕃賀とあり板行本にハ蕃賀と云とり去村松原

村等の數村と今ハ日永郷と称は是蕃賀の旧に也と稻葉通邦の著書

にいり日永崎ハ西の方へ出張りて伊勢國三重郡日永郷とて一向へ
ア同名にて風景ナズルナリ

忠女夏ノ事 おぢのハ古見村乃賤婦なり主に仕へて精忠を尽せり内
藤東甫夏ノ像と西き細井如來先生其讃とあり其友左の如し

題忠女夏像

紀徳氏

是 藩潮厚賜以褒賞忠女夏之像也夏者我知多郡古見村農夫只
右衛門之婢也只年少而喪父比長得癘疾久之失田產奴婢皆散獨夏
止而不去扶主母以養病子既而衣食計畫主母乃知窮極無生理而憫
夏謹護徒倍飢餓辱諭使去不可又使夏兄弟諭之愈益不肯去曰我之初
逢主之富而至于今之貧亦我命之無福也吾將棄阿主而安之日夜奔
走賃傭苦作無所不為僅以衣食二主時不得賃則行乞道路得食供之
已則漱葛不掩體菜菔不飽口憔悴骨立使見者酸鼻而毫無悔恨之色
日欣以事二主為悅三十年一日云今茲天明元年辛丑主母年六十

三病主年四十七夏年五十七得能生存乎凍飢以及 君上恩賜盡夏
之精誠之所致也開水藤翁好善為畫其貌示余、觀圖淚下因題之曰
事君之餘致其身也雖未必期光榮於後日而有光榮隨焉蓋所以至有
死而不悔亦出茲華野岸女豈有所知而期乎視天蒼々嗚呼亦何其報
之彰著斯可以警士君子矣

荒尾古城 木田村小町の城主荒尾小太郎のち美作ハ水野下野守信元

乃智ちて武功ぶをこしたりのち池田信輝入道に住すり子孫因幡侯の長
臣の先祖いりのち荒尾太庄と領知り武勇萬名の同族多し三四人と左
小町く

荒尾九郎ハ太平記ハ元弘元年笠置入軍の条に兩六波羅の軍勢に加
ハリた美濃尾張乃人々のうちに荒尾九郎同孫五郎兄弟前陣小進
み城中より足助次郎重範を射ち強弓乃矢に中りて二人とも比類
なくめさりて戦死しとて忠心なり

忠女夏像縮圖



余欲助忠女奉其主之志亦貪而不能焉乃自
畫忠女像數百張請平列氏使題其上以興之
是以持好事之求取錙銖之利則庶幾可以助
忠女且夕之勞耳

泥江朽菴主人 内藤正參東甫画

因に去當即成出村孫六備むるめひさ小野浦村清翁錙銖かの
兩人父也及八祖母等考養のち名他と稱せしが精考不ささ敷年
つひと持軸に達し天明五の四月廿二而女善鏡不世文下十
置もて樂賞し五ひより蘇共爾隨筆に之より時はら殺女
の多かりしと思議と云へ

荒尾小太即ハ康正二年造内重段錢并國役引付に四貫文荒尾小太
即殿尾州智多郡段錢と元元より殿文字と添へるより貴權あり
と記せらる

荒尾治部少輔ハ寛正六年の蜷川親元記に元元より前の寺本
条に志すは合せ又傳へ

荒尾小太即奥補并荒尾民部少輔ハ長享元年九月十一日常徳院殿様
江州御動座當時在陣衆着到當年書類に板行本ありに荒尾小太即奥補在京より
同着到の四番衆のうちには尾州荒尾民部少輔と志せり皆室町將

軍家に属したる人なり

姫島村 荒太庄にあり東面に御林廣く昔ハ野馬の牧育もあり
東海道名所記の斐田の渡海の祭に左りの方に姫島と野馬あり
所

ありと云ふ延宝板刺の道中記にも姫島小野馬ありと云ふり
と云ふ地ハ他國にも例ありて神社考に姫島者在豊後せり拾津と云ふ
その拾津なるも昔話なりと共ニ万葉集土記亦に姫島の松原と連稱して

言ふも姫小松と云ふは了り今此地の林野も雅趣
ありて實に姫島の松も松すは此勢なり

毛登目島

松葉集乃尾張乃名所のうちに毛登目島と云ふ歌枕秋篠

覚にも尾張の名所のよりいり志す島今ハなるといへり恐
らくハ姫島村の古名なる也一丸姫とは若き女的美稱して乙女とも

毛止女とも通稱すされハ東抄舞曲の求子歌にちよとちよか娘の
社乃娘小松百代ぬとも望はるころと唱ふは少女の姿の年老ひ

とも替らぬといふも姫小松にちよとちよなり其歌を求子と
名けりし向ふて娘と毛止目と同義なるを和抄も且又拾津也

荒原郡の葦屋慶女塚と申じり打頃より求塚と申ひたりり

同一例なり

大正年秋一らハ尾張と云ふ

白波の立のみかたはるめなりしあきつるや河海かこみ

如意山寶珠寺 雷田村小あり曹洞宗棟須賀村長源寺乃末寺也觀

音堂乃末尊ハ在原業平朝臣の護身佛なりといひたり

荒尾洞 加家村といへり洞と岫ともいふくき又わけとも辨はされハ
加家ノ地名ハ如來山ノ洞ナリ起。一カケル。一駿河の名所ニキ時々今ハ
洞村と名ふると同例ナリ

建仁寺宗楨

荒尾洞秋月

元張宗 雲間月露映清涼荒尾風光天下尤名境未嘗分異域洞邊移得洞庭秋
同 名ヲと似テ荒古ハ洞ノ松風にん志け事き厚のけり 佐野紹基

子安明神社 木山村にあり里老のけりくへし行基菩薩國通寺建立の時

氏社も創建ありといひ君山先生乃考へて日本國帳にのせしる從

三位鍛山天神ハ氏社々といへり佐とふと古めうへ社地ナリ

關白秀次公事 名所圖會の大高の條に主向一並行とて今又少

々附録す凡太閤ハ賞罰正一きを好み落へも罪科と行ハるるに嚴

重一徹なりといへども其罪とからくすなり或ハ方便とてつくろ

ひ中解く人預レハ忽御氣分和らぎ宥免一預ひ一例救後ありされ

ば秀次公の奢侈ハ頗る過だつと逆意ハないひくると吹拳はる

關白秀次公銅印



重十三拾七文

祝鈕



文園所藏

愛知 県



1103263690

294

才

IA-3-4